

浪江にベニザケ養殖場

28年出荷目標 いちい、JA津島跡活用



スーパーを展開するいちい（福島市）は、浪江町津島地区の旧JAふたば津島支店の跡地にベニザケの陸上養殖施設を整備する。今春に着工し、年内の完成を目指す。同社は2023年、NTT東日本と岡山理科大との共同で、世界で初めてベニザケの陸上養殖に成功。本格的な事業化に向け、年間を通して出荷できる養殖体制を確立する。

管理棟、ポンプなどを稼働させる太陽光発電設備を建設する。完成後は卵から成育し、順調に行けば28年冬に出荷できる見込みだ。同社は22年1月から、共同でベニザケの陸上養殖の実証に取り組んできた。本社敷地内に養殖場を整備、情報通信技術（ICT）と人工海水「好適環境水」により効率的に管理し、養殖

する技術を確立した。ただ本社の養殖場は水槽が小さく、出荷できるサイズになるまでの2年周期でしか養殖できなかった。新施設では複数の水槽を設けることで、年間を通して一定量を出荷できる体制を整える。津島地区は東京電力福島第1原発事故で帰還困難区域となり、建設地を含む地区の一部は23年3月に特定

復興再生拠点区域として避難指示が解除された。同社は、東日本大震災後に手がけた養殖事業による雇用創出などを通して復興に貢献する目的で立地を決めた。養殖事業を担当する秋山亨仁さん（36）は「業界でも注目されている事業。新たな特産品となり、地域に貢献できるように準備を整えたい」と話した。